

学 年	教科等	単元名	日 時
第4学年	外国語活動	What time is it? 今、何時?	令和元年7月10日(水)
本時における「深い学び」	自分や級友の生活について「伝えたい」「知りたい」「どういうことを言いたいのかな」「どうしたら互いのことをもっと知ることができるかな」等の思いをもって、仲間と表現づくりをしたり、相手に伝わるように伝え合ったりする姿があれば深い学びがあると捉えます。		

本時は、前期授業研究会での反省を生かして、改善を図った授業である。前期授業研の授業の次時(単元のゴール)にあたる。前期授業研の反省や事後研でいただいた御意見をもとに考察・変更した点は以下の通りである。

前期授業研究会		本時
ペアで表現づくりをする時間を2分取った。その2分間に英語のやり取りを行い、終わったペアはよいところやアドバイスを伝え合うようにした。 時間があるにもかかわらず無言のペアがあった。	➡	よいところ、アドバイス、英語で言いたいけど言えないところ等を意見交換する時間を2分間の後に別に設ける。
ペアで試しに伝える→新ペア①→新ペア②→初めのペアに戻ってリハーサルという流れで行った。(新ペアの部分が表現づくりの場)	➡	表現づくりの場では、ペアではなく友達と3人(または4人)班を作る。3人で1人の表現をつくり合う。
教師と代表の子どものデモンストレーションのよいところを発表するようにした。表現づくりの活動後、ふりかえりに入る前に、代表ペアによるやり取りを視聴し、よいところを発表するようにした。	➡	「教師とデモンストレーションを行った子どもを、代表ペアとしても発表させたほうがよかったのではないか。」という御意見をいただいた。検討した結果、この点は変更しないことにした。理由は2つの代表のやり取りの視聴は目的が違うからである。 ① デモンストレーションを視聴し、よいところを全体で共有することで、「自分たちもこのようにやり取りしていけばよいのだな」「こういうよいところを意識するとよいのだな」という見通しをもって表現づくりに入れることができる。 ② 個人のふりかえりに入る前に、代表ペアのよいところを全体で共有することで、全員が本時めざす姿を共有してふりかえることができる。 ②の目的達成のために①と同じ子どもを選ぶ必要はなく、①の子どもに自信を高めてほしい場合は他の子ども同様、各ペアや班活動のなかである。
ジェスチャーを使う姿があまりなかった。	➡	代表児童とのやり取りのなかで、教師が英語でどう言うのか分からず、ジェスチャーを使う様子を示すことで、「自分も使おう」「アドバイスしよう」という非言語を含めた表現の工夫の意識を高めることができるようにする。
めあてに立ち返らせることが不足していた。	➡	特に代表ペアの発表の際にめあてに立ち返り、より表現内容に着目できるようにする。
ふりかえりの発表の際に「～さんの～がよかった。」等の発表のみで終わっていた。	➡	称賛された子どもに実演させて全員で共有する。
Do you like ～?と尋ね、No. で返事をされると会話に戸惑う様子があった。	➡	前時に“Do you like ～?”の返答が“No, I don't.”が返ってくるとどうだったかを想起させ、“No”が返ってきたあとの会話の流れを全体で考えることで、相手と楽しく会話を続けようとする態度を少しずつ育てられるようにする。

子どもの姿

○ めあてを立てる場面

- ・ 「もっとお互いのことを知るために伝え合おう」「もっと仲良くなれそう」という思いをもっていた。

○ 表現づくりの場面

- ・ 3人班にしたことで、1人に対して2人がかりで積極的に質問したり、英語やジェスチャーのアイデアを出したりする姿があった。
- ・ 級友に伝わるかどうかを考えながら、できるだけ英語やジェスチャーで伝えようとする姿があった。

(例)

- ・ 「(ゲームで)家をつくる」を「ハウス(家)クラフト(つくる)」と自分で考えていた。
- ・ はじめは「自由時間」と日本語を使っていたが、3人班で話し合った結果、「リラックス」と「フリータイム」が出てきた。そして「フリータイム」を選んでいった。
- ・ 前の単元で出てきた曜日を表す英語を付け加えていた。
- ・ 「ぷよぷよをつぶす」という日本語を使っている仲間にジェスチャーで示すように手本を見せていた。

○ 表現づくり後の意見交換の場面

- ・ 英語で言いたいけど言えないところを尋ねたり、よかったところを伝え合ったりしていた。
- ・ 「よいところをたくさん言ってもらえて嬉しかった。」というふりかえりがあった(時間的にこれまでより余裕があったためか)。
- ・ 「何と言えばいいのか分からないところは特にない。」と、内容や英語を変えたり増やしたりしようとしないう姿があった。

○ ペアをつくって好きな時間を伝え合う場面

- ・ 前時より笑顔で、自信をもって、英語を増やしてやり取りを楽しむ姿があった。
- ・ 聞き手になったときに、うなずきやあいづちで反応を返したり、質問したりしていた。
- ・ 時刻と～timeを言ったあとの理由等の付け加えの部分が2人とも出てこないままのペアがあった。

○ ふりかえりの前に代表ペアのやり取りを視聴する場面

- ・ 代表のやり取りを聞いて、他の子どもが日本語や英語で好意的に反応している姿があった。

(例)

- ・ 代表が「金曜」をFridayと英語で言ったあと、「金曜ロードショー」と日本語で言った際にはFriday roadshowと他の子どもが英語で言い、代表が「Becauseサーフィンしている」と言った際にはSurfing timeと英語にしていた。



【表現づくりの場面】



【代表ペアのやり取りの場面】

実践をふりかえって

「もっとめあてに立ち返った方がよかった」という前時の反省を受けて、「みんなに伝わる英語か」「お互いのことをもっと知ることができるか」ということを表現づくりの場面、ペアで伝え合う場面、代表ペアのやり取りを視聴する場面、ふりかえりの場面でくり返し意識させるようにした。

また、表現づくりの活動をとおして、話し手を支える聞き手の重要性がより確かなものになってきた。話し手に質問したりアドバイスしたりして一緒に表現をつくる聞き手だと、話し手の思考内容や英語、ジェスチャー等の表現内容の高まり、自信の高まりが見られた。このような中学年のときからの積み重ねをしていくことで話し手としても聞き手としても思考内容や表現内容が高まり、高学年、中学校でのより相手意識のあるコミュニケーションへとつながることを期待している。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

○ 指導計画（5時間）

- (1) 好きな時間や日課を伝え合うときに使う英語に慣れ親しんだり、世界には時差があり、外国の子どもにもそれぞれの生活があることに気付いたりする。_____ 3時間
- (2) 好きな時間や日課を伝え合うために英語やジェスチャーを考えたり表現したりする。_____ 1時間
- (3) 相手に伝わるように工夫しながら、自分の好きな時間や日課について伝え合う。_____ 1時間（本時）

○ 本時の目標

相手に伝わるように英語やジェスチャーを工夫しながら、自分の好きな時間や日課について伝え合う。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 「好きな時間や日課を伝え合う」という目的、場面や状況を確認し、本時のめあてを設定する。</p> <p>○ 本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>すきな時間を伝え合って、おたがいのことをもっとよく知ろう。</p> </div> <p>2 教師のやり取りを視聴し、自分や友達の好きな時間についての表現を考え、最終リハーサルをする。</p> <p>○ やり取り例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A: Hello, B. B: Hello, A. A: How are you? B: I'm fine. And you? A: I'm happy. Can I go first? B: Sure. A: I like 8 o'clock. B: You like 8 o'clock. Why? A: Because it's "Dinner Time". I like rice. Do you like rice? B: No, I don't. A: Really? What food do you like? B: I like sandwiches. A: I see. I like sandwiches, too. How about you? B: I like 9 p.m. ⋮</p> </div> <p>3 ペアをつかって好きな時間を伝え合う。</p> <p>4 代表のやり取りを視聴し、よいところを発表する。</p> <p>○ 好きな時間についてみんなに伝わる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなに分かる英語 ・ ジェスチャーやアイコンタクト等の非言語 <p>○ 話し手と聞き手が支え合う姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語が分からないときに教える 等 <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <p>○ ふりかえりの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元のゴールを終えての感想 	<p>○ 前時の子どものふりかえりをとおして称賛することで、「前時の学びがあるから本時も大丈夫そうだ」という思いをもてるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目的: 好きな時間や生活を伝え合い、互いのことをより知るため。 場面や状況: 最終リハーサルをした後、いろいろな相手に伝え合う。</p> </div> <p>○ 3人（または4人）の班で英語のやり取りを行った後、意見交換をして、それぞれの表現と一緒に考えるようにする。また、学習活動4に挙げていることを意識する姿や、次のような姿を称賛する。そうすることで、相手が伝えたいことに寄り添って一緒に考えたり、自他の表現力の高まりを感じたりすることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問やアドバイス等をして相手の表現についても考えている。 ・ 繰り返し同じ英語やジェスチャーを使う。 ・ 英語等を変えたり、付け加えたりする。 </div> <p>○ めあてに立ち返り、「おたがいのことをもっと知ることができるか」「みんなに伝わる英語か」という意識を高めてやり取りできるようにする。</p> <p>○ 本時めざす姿とはどのような姿なのかを全員に共有させることで、本時の自分や友達、代表のやり取りを照らし合わせながら、外国語によるコミュニケーションで大切にすることや、表現力の高まりについてふりかえりができるようにする。</p> <p>○ 次のような内容を紹介することで、自信を高めて今後の学習に臨むことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の表現の工夫 ・ 友達と一緒に考えたり教え合ったりする姿 ・ これからがんばりたいことや楽しみなこと </div>

○ めざす子どもの姿

「話し合ったおかげでレッスンという英語を使えたぞ。自分と同じ時間が好きな人もいたし、意外なことを好きな人もいて、新しくいろいろ知ることができた。また話したいな。」

【態度】

